

# 「龍北中学校の島ユムタ伝承活動の取組」

## 1 学校名

龍郷町立龍北中学校

## 2 学年・人数

1学年（2人） 2学年（6人） 3学年（4人） 計12人

## 3 日時・場所

### (1) 練習の日時・場所

令和4年5月～10月 総合的な学習の時間（本校多目的室、体育館）

令和4年7月8日（金） 地域の方を招いてのシマグチ指導、島口カルタの作成

### (2) 発表の日時・場所

令和4年7月9日（土） 島口カルタ大会（本校多目的室）

令和4年11月3日（木） 荒波タイム発表会（本校体育館）

## 4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能、伝統行事について

### (1) 名称

島ユムタ（しまゆむた）劇

### (2) 由来

奄美大島の各地域で古来より使われている方言は、古事記や万葉集に出てくる古語が今も使われ、発音にも大きな特徴がある。奄美大島では、「シマグチ」「シマユムタ」「シマクトゥバ」と呼ばれている。このシマユムタを流暢に話せるのは、今やお年寄りや限られた人たちとなっており、未来を担う若者たちへの伝承が重要な課題である。

### (3) 構成等

奄美の伝説を、島グチを用いて脚本化し、生徒が演じるものである。ストーリーを島グチで表現する作業や島口でのイントネーションの指導には、地域の方の協力を得ている。生徒は島口で表現しながら、伝説を生み出した郷土の歴史や民俗、環境について、改めて知る機会となっている。

## 5 保存会や地域との連携の具体

地域に伝わる伝説を題材にした劇を島口で表現するために、以下の2つの作業において地域の方の協力を得た。まず、脚本を島口での表現に変換することである。生徒や教員が地域の方から聞き取った島口を活字にする作業である。その後、文字での表現が難しいイントネーションやアクセントを理解しやすくするために、実際の脚本を地域の方に島口で朗読していただいたものを録音し、音声データに変換する作業を行った。さらに、実際に演技を行いながら、細かな修正を加えていっている。

## 6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

島ユムタ伝承活動は、平成16年から本年度で19回目となる伝統的な取組である。これまでは、生徒の興味・関心の高い題材をもとに劇を作っていたが、地域の方々から地域の伝統行事を題材にシマグチの劇を作れば、地域を知るよい機会になるのではないかという提案を頂いた。そこで、平成28年度から各集落にある伝統行事や昔話を題材にした創作劇を制作した。

## 7 取組の様子（練習状況、発表の場等）

本年度は、広く奄美大島に伝わる伝説を題材にした劇の制作に取り組み、大勢の方々に学習発表会である「荒波タイム発表会」において披露した。



【島口カルタ大会】



【荒波タイム発表会】

## 8 参加生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

### 【生徒】

- ・ とても緊張したけれど、その場に合わせた動きを取り入れることもできたのでよかったです。
- ・ 島口が難しかったけれど、みんなと協力しながらすばらしい劇をつくることができ、よい思い出になりました。

### 【職員】

- ・ 消滅の危機にある島口を地域の方に直接指導していただき、郷土について学習したことの成果を地域に発表することができた。文化を継承する主体が生徒自身であることを自覚させ、また、生徒の取組を地域の方に知っていただく機会にもなった。

### 【地域・保護者】

- ・ 島口への思いが伝わり、大人もいろいろなことを考えるきっかけになった。
- ・ 練習を重ねたことが伝わってくる劇だった。
- ・ 自然と島口が出てくる環境があればよい。